

科目名	熱力学 B Thermodynamics B	科目コード	11177
-----	---------------------------	-------	-------

学科名・学年	機械工学科・4年（プログラム1年）
担当教員	河田 剛毅（機械工学科）
区分・単位数	学修単位科目・必履修・2単位
開講時期・時間数	後期，30時間【内訳：講義28，演習0，実験0，その他2】
教科書	日本機械学会編，JSME テキストシリーズ 熱力学，丸善
補助教材	
参考書	

【A. 科目の概要と関連性】

熱力学 A に引き続き、熱から動力を取り出す上で必要となる理論・法則を扱う工業熱力学の後半部分の講義を行う。これと並行して、工業熱力学に関する応用力を養うことを目的として、関連する問題の演習を行う。

○関連する科目：熱力学 A（前期履修），伝熱工学（次年度履修）

【B. 「科目の到達目標」と「学習・教育到達目標」との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(D)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。

科目の到達目標	評価の重み	学習・教育到達目標との関連
①熱力学第2法則について理解する	40%	(d1)
②代表的なガスサイクルの構成・性質・熱効率について理解する	20%	(d1)
③蒸気の性質、蒸気サイクルの構成・性質・熱効率について理解する	10%	(d1)
④工業熱力学に関する具体的な問題が解ける応用力を養う	30%	(d1)

【C. 履修上の注意】

熱力学 A はもちろん、式の誘導中に線積分，周回積分が現れるので、これらについてきちんと復習しておくこと。

各回の授業の最初に、前回の課題演習問題を範囲とした小テストを行う。

【D. 評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60点以上を合格とする。

- 定期試験（70%）【内訳：後期中間30，後期末40】
- その他の試験（30%）【演習問題からの小テスト（12回）】

【E. 授業計画・内容】

● 後期

回	内容	課題
1	授業の概要説明、熱力学第2法則に関わる基本概念(熱機関のモデル化・熱効率、可逆・不可逆過程)	演習問題：熱量計算
2	熱力学第2法則の概念(言葉による表現)	演習問題：熱力学第1法則(1)
3	カルノーサイクル(1)：構成、熱効率の特徴(1)	演習問題：熱力学第1法則(2)
4	カルノーサイクル(2)：熱効率の特徴(2)	演習問題：エンタルピー
5	熱力学第2法則の数式化(1)：熱源が2つの場合、クラウジウスの不等式(1)	演習問題：理想気体の性質(1)
6	熱力学第2法則の数式化(2)：クラウジウスの不等式(2)、エントロピーの定義、エントロピーを用いた表現式(1)	演習問題：理想気体の性質(2)
7	熱力学第2法則の数式化(3)：エントロピーを用いた表現式(2) エントロピーの利用(1)：ギブスの式、理想気体のエントロピー変化(1) ここまでの重要事項のまとめ	ここまでの重要事項の復習
8	中間試験	試験時間：50～60分
9	試験の返却・解説 エントロピーの利用(2)：理想気体のエントロピー変化(2)、液体・固体のエントロピー変化、T-S線図の利用	演習問題：理想気体の状態変化(1)
10	ガスサイクル(1)：往復式ピストンサイクル(1)オットーサイクル	演習問題：理想気体の状態変化(2)
11	ガスサイクル(2)：往復式ピストンサイクル(2)ディーゼルサイクル	演習問題：理想気体の状態変化(3)
12	ガスサイクル(3)：往復式ピストンサイクル(3)その他のサイクル、ガスタービンサイクル	演習問題：理想気体の状態変化(4)
13	蒸気の性質	演習問題：伝熱現象におけるエントロピー変化
14	蒸気サイクル 全体を通しての重要事項のまとめ	ここまでの重要事項の復習
—	期末試験	試験時間：50分
15	試験解説と発展授業	